



人と自然の共生に向けた人づくり 地域づくり ユネスコエコパークとユネスコスクールを活用に向けて

『ツシマヤマネコをはじめとする対馬固有の生態系』

『人々の持続可能な経済活動』

この2つを同時に両立させることは可能でしょうか？

未来の対馬のあるべき姿を考えたとき、そのヒントがユネスコによる2つの認定制度から見えてきました。

今年1月に市民の代表と市職員が訪れた、宮崎県綾町と福岡県大牟田市の、取り組みを合わせてご紹介します。

ユネスコエコパーク

人間と自然の共生を目指すため、多様な生き物が暮らす自然を保護するだけでなく、そのまわりで生活する人々の持続可能な発展も目指す地域のことです。

ユネスコスクール

「環境」「国際理解」「福祉」「人権」「文化財」などの学びを通して、人としての生き方を考えたり、自分にできることを具体的な行動として実践したりすることに取り組む学校のことです。

ユネスコエコパーク【綾町での取り組み】



宮崎県綾町では、綾川上流域（核心地域）の照葉樹林保護・復元計画と下流域（移行地域）の自然生態系農業の二つが地域づくりの核となっています。エコパーク登録後、全国的に綾町の取り組みを応援する人が増加しました。平成25年度の綾町ふるさと納税額は1億8千万円を突破！前年度比で約10倍増となりました。

★どんな活動を
しているの？

核心地域（コアゾーン）

世界全体の財産として高い価値を持ち、自然環境保護の一番大切な地域。



シンボルの大吊橋からは、町民が守り続けてきた照葉樹林が一望できます。

緩衝地域（バッファゾーン）

核心地域を保護する役割と共に、自然に負担がかからない範囲で、観光・教育・研修・エコツーリズムなどに利用できます。



生態系を肌で感じる森林ウォーキングが楽しめます。

移行地域（トラジッションゾーン）

人と自然が共生する持続的な暮らしを営む地域。社会活動や企業活動が出来る、世界自然遺産にはない独特の区域です。



有機野菜を使った魅力的な飲食店も目立ちます。



綾手づくりほんものセンター。綾町で生産される有機農産物・加工食品・工芸品等特産物の展示即売を行っている直売所です。

ユネスコエコパーク土地利用の基本的な考え方

担当者の声

中原 修一さん（宮崎県綾町エコパーク推進室）

エコパーク登録というブランドを、どのように活用していくかが大切です。国内外から訪れる人が増加したことにより、今後は町民と綾町を訪れた人が価値観を分かち合える町づくりを展開していく必要があると考えています。

今年度、対馬市はエコパーク指定に向けて、核心地域候補となる竜良山と白嶽・御嶽における環境調査（主に植生調査）を行います。



ユネスコスクール【大牟田市での取り組み】

かつて炭鉱で栄えた福岡県大牟田市では、ESD※の視点に立った学習指導（課題を見出し、それらを解決するための能力を身につけること）が現代の教育現場では必要不可欠と捉えています。教育委員会が各校との連携を確保し、世界中でも初めての市内全ての小・中・特別支援学校がユネスコスクールに認定されるという快挙を達成しました。



大牟田市が取り組むユネスコスクール

※ESD (Education for Sustainable Development)
 持続発展教育＝持続可能な社会の担い手を育む教育

★どんな活動を しているの？

エコスクールの一つ大牟田市立吉野小学校を訪れました。小学3年生の総合的学習の時間では、身近にある校庭の樹を一年かけて調べ発表していました。テーマは、環境や植物だけでなく国際理解や生命など多岐にわたります。吉野小オリジナルせんべいは、イベント等で子ども達が販売し、収益は校区での植樹活動の資金に充てているそうです。



吉野せんべい



大牟田の魅力を探そうと作成された子ども大牟田検定ガイドブック



授業の様子

担当者の声

古賀 信弘さん（福岡県大牟田市教育委員会指導主事）

郷土学習や環境学習では調べるだけの学習で終わるのではなく、それらの総合学習を通じて学んだことを活かして、地域にフィードバックするなどの取り組みによって、子ども達の人格形成まで繋げる視点を持つことが持続発展教育を展開する上でとても重要です。



視察に参加した市民の声



伊藤 麻子さん (島おこし協働隊)

有名な照葉樹林の遊歩道を歩き、スーツでも気軽に歩けることや、「100年かけて照葉樹林を復元する計画」があることに感激しました。それと同時に、「迫力是对馬の竜良山の方がある」と思いました。そして「竜良山周辺の植林地は伐採後、照葉樹林に復元する計画」のようなものを、みんなと一緒に作れたら素敵だと思いました。

内山 美津子さん (元巖原地区地域審議会委員)

綾町の有機野菜は味が濃くて非常に甘かったです。また大根ゼリーなど初めて出会った料理に感動しました。これらの料理を真似て工夫しながら作っています。綾町を視察して、対馬も関連機関が横の連携をとりながら、農協が農家に有機栽培を指導するような体制になってもらえたらいいなと感じました。



平山 美登さん (佐護区長)



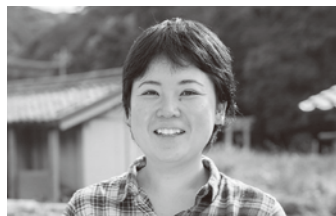
綾町の自然生態系農業では町全体で認証制度を確立しており、一人一人の農家が栽培管理記録簿の記入・提出を徹底していました。さらに農家がインターネット等を駆使して生産物の流通販路を独自に開拓しており、農家の意識が高いと感じました。対馬でも関係機関が連携して生産体制を整備し、農家の生産意欲や意識の向上を図れたら良いと思いました。

原田 義則さん (元志多留区長)

綾町では、自然が好きな人や有機農業に取り組みたい人など、町が目指している方向と合致した人が移住しており、森林生態系の保護や啓発活動、農園、農産物の販売所など、様々な場所で多くの移住者が活躍している印象を受けました。農村部と都市部の交流共生により交流人口の増加を図り地域を活性化させる考え方は対馬でも同じで、自分が暮らす志多留地区の活動に活かしたいと思いました。



細貝 瑞季さん (島おこし協働隊)



ユネスコスクールの大きな特徴は、世界中の学校と繋がれる点にあります。環境教育や国際理解教育など、答えのない時代を切り開くための学びを、多種多様な人たちとの繋がりの中で得ることができます。かつて大陸と日本各地を繋ぐ中継地点だった対馬に生きる子どもたちの未来をさらに広げることができる仕組みだと思いました。

対馬市が目指す「先人から引き継いだ島の宝を次世代へ引き継ぐために森・川・里・海のあるべき姿と繋がりを取り戻し、自然資源に恵まれた魅力ある島づくり」はまさにユネスコエコパークの機能と合致しています。また、その担い手をはぐくむ教育理念にはESDの視点が欠かせないものとなるでしょう。

対馬市では、市民の皆様と一緒に将来の対馬を考えていきっかけとして、これからも両制度に関する取り組みを進めていきたいと考えています。